

茨木市では、美術の創作活動推進と市民文化の振興を目的として、ギャラリー(画廊)を阪急電車茨木市駅構内に設置しています。このたび、街 ing 会員の鈴木さんがこのギャラリーで個展を開催されることになりました。20年の歴史がある街 ing でも最初の個展です。この機会にぜひお立ち寄りください。鈴木さんからの原稿を紹介します。

鈴木敏正 パステル風景画 作品展

鈴木敏正



爽やかな乗鞍高原 F6 パステル

日時：2022.5.12(木)～5.17(火)
10:00～19:00(最終日は17:00)

場所：茨木市立ギャラリー
(阪急京都線 茨木市駅構内ロサヴィア
2F)

私は全日会場におります

私の生涯学習の一つとして、老後を楽しくボケ防止にもなる絵を描き、一度でも個展が出来たらとの思いで活動を始めました。しかし、絵を描くといっても描画には油彩、水彩、墨彩、色鉛筆、パステル、クレパスなど沢山の描画材料がありますが、パステルで描くグラデーションの美しさに魅せられ、パステル画を選びました。また、テーマも風景、静物、人物、動物などの中から風景画に取り組むことにしました。

自然は季節、時間で変化し、人々を癒してくれます。その様を切り取り、風景画として描いて6年、何とか個展が出来るようになりました。未熟な作品ばかりですが、ご高覧いただきご感想をお聞かせいただければこの上ない励みとなります。会場には用紙を用意しておりますので、忌憚のないご感想をお願いいたします。

蛇足ながら絵を描く効果として、脳科学者の研究によると、ストレス解消や記憶力のアップすることがわかってきています。

小さい頃には誰もが描いた絵、大人になってからは趣味でもない限り絵を描くことが少なくなったと思いますが、上手、下手に関係なく絵を描くことに取り組んでいる時が、ストレス解消や記憶力アップにつながるようです。絵を描くことが苦手な方は、「塗り絵」でも効果は期待できるそうです。

最近、老化防止効果で「大人の塗り絵」が注目されましたが、自分の楽しめる「塗り絵」を選び実践したらよいと思います。

満開の桜と御室の味覚を堪能

花園駅から仁和寺まで

実施日 2022年4月5日(火)

参加者 街ing13名 川本 河村 阪田 阪田 佐藤 杉田 清野 中村 南野 長谷川 牧 松岡 吉田 他の
団体15名 合計28名

JR 京都駅から嵯峨野線で五つ目の駅が「花園」です。この地にある「法金剛院」が平安時代より四季折々の草木を植えていたことから、「花園」と呼ばれてきました。今年のお花見は花園駅を起点に「法金剛院」「退蔵院」「双ヶ丘」と巡り、春爛漫の京都を楽しみました。企画・案内をしてくださいました牧さんにお礼申し上げます。



法金剛院(ほうこんごういん)
平安時代から続く古刹です。
枝垂桜(しだれざくら)は圧巻。6月の花しょうぶと
あじさい、11月の紅葉も一見の価値ありとの
ことでした。

*古刹(こさつ)由緒ある古い寺



妙心寺(みょうしんじ)

塔頭 46 寺、末寺は世界各国に広がり 3,400 余、在籍する僧は約 6,000 人。日本最大の禅寺です。妙心寺の山内は石畳で結ばれた寺町を形作っています。敷地は 10 万坪、とにかく広い。

*塔頭(たっちゅう)大寺院の敷地内にある小寺院。

*末寺(まつじ) 本山の支配下にある寺。



退蔵院にある紅しだれ桜です。退蔵院は妙心寺の塔頭のひとつ。おおいかぶさるような桜を経験しました。
退蔵院には国宝の瓢鮎図(ひょうねんず)がありました。ちいさな瓢箪で大きななまずをいかにして捕らえるかという禅問答です。どのような答えがうかびましたでしょうか。



双ヶ丘(ならびがおか)はつれづれ草で名高い兼好法師が住んでいました。頂上への道はけわしく、地道をあえぎながら登りました。頂上からの眺めはまさに絶景でした。

昼食会場 佐近
はんなりした京料理を味わいました。佐近は仁和寺のすぐ前にあります。仁和寺から見て左側にあるので、「左近」なのですが、人を表すニンベンをつけて「佐近」としました。多くの人に来てほしいという願いが込められています。



日本一遅い乗り物・水郷近江八幡＜手漕ぎ舟＞への誘い

近江八幡の町は、豊臣秀吉の甥・豊臣秀次が八幡山城を築城し、安土城下の住民を移住させたことに始まる。そして、江戸時代から明治にかけて多くの近江商人を輩出する。“重伝建”に指定されている新町通り・八幡堀の周辺には、今なお豪商の邸宅や趣ある古い街並みが残っている。

市内には、日牟禮八幡宮、長命寺など由緒ある古社寺も多く、W.M.ヴォーリズが設計した洋風建築物も、各所に点在している。

また、八幡山頂の本丸跡には、秀次の菩提寺・瑞龍寺（村雲御所）があり、眼下に碁盤の目状に区画された街並みを俯瞰できる。

琵琶湖八景のひとつ、“春色：八幡・安土の水郷”。水辺に葦が群生している西の湖の水路を、手漕ぎの田船が鳩（カイツブリ）を掻き分け掻き分け行く日本一遅い乗り物・長閑な“水郷巡り”は、今どきの＜まちづくり＞・＜まちおこし＞への何らかの示唆に富んでいるといえまいか！

江戸期には「養老の秘薬」として幕府に献上されていた“近江牛”。松坂牛・神戸牛と並んで、和牛の三大銘柄にも数えられている。この際、この妙なる食材も是非とも味わいたいものだ！

水先案内人：牧 彰（OB 会員）

順 路：「茨木」⇒「近江八幡」～（バス）～街並み散策（新町通り・八丁堀）～日牟禮八幡宮～
ロープウェイ・八幡山山上～白雲館～（昼食）～ラコリーナ～水郷巡り～（バス）～
「近江八幡」⇒「茨木」

※昼食は、近江西川などで「近江牛」を食す。



黄金色の葦群生地を行く“手漕ぎ舟”

“手漕ぎ舟”で水郷巡り

日本一遅い乗り物・“手漕ぎ舟”で水郷巡り！

その“水の旅”で再認してほしいのは、琵琶湖の環境と人のライフ・スタイルです。

「近江八幡和船観光協同組合」HPより

◇豊臣秀次が造った水路“八幡堀”で、秀次が遊んだ“舟ゆき”が水郷巡りの起源！

軋む櫓の音、小鳥の囀り、魚の跳ねる水音、漣などの心地よい音に耳を遊ばせ、水の匂い、葦の葉の香りに心鎮め、水面を渡る風に髪を梳かせ、のどかに揺れながら手漕ぎ舟で行く水郷巡りです。

春は桜や菜の花、夏は新緑、秋は黄金色の葦群、冬は越冬に訪れた水鳥たちを眺めながら、八幡山や安土山、伊吹山を望む西の湖への小さな船旅。

この水郷巡りは、八幡山城を築いた豊臣秀吉の甥の秀次が、琵琶湖を往来する舟を城の内堀である八幡堀に引き込むことで、経済の発展を促したことに始まります。秀次が宮中の舟遊びに倣い、豊年橋から広がる水郷地帯を舟で巡り、歌会などを行ったのが発祥と言われています。その当時は“舟ゆき”と呼ばれた優雅な舟遊びです。

◇琵琶湖の葦を護るために、有志が立ち上げた水郷巡り！

水郷の周辺では、昭和 40 年代、大中之湖の干拓や長命寺川の整備などにより、水辺の景観が著しく変化し、葦群が減少するようになりました。危機感を覚えた有志が「水美会」を立ち上げ、消えゆく葦地帯の保全と保護を訴えるため、昭和 52 (1977) 年頃から舟を持ち寄って観光客を乗せて水郷を案内したのが、現在のような遊覧船形式の始まり。その中心人物であった葦で簾を作る仕事^{すだれ}をしていた福永武。氏を中心とした「水美会」の活動は、当時盛り上がりを見せていた八幡堀の保全運動と相まって、近江八幡の街を観光地として発展させる大きな原動力となりました。

昭和 54 (1979) 年、近江八幡市との連携で、「水郷の自然保護と観光の共生」を目指し、「近江八幡和船組合」が発足し、水郷巡りが観光事業として本格化します。昭和 56 (1981) 年には現在の「近江八幡和船観光協同組合」が設立され、官民一体となって全国で観光キャンペーンを展開するなど積極的な PR 活動を行ってきました。

更に、作家・司馬遼太郎氏が人気シリーズ『街道をゆく』の「近江散歩」で水郷巡りを紹介したことで、益々その人気を高めました。

◇不便な手漕ぎ舟から、本当の豊かさを発見してほしい！

水郷巡りは年毎に人気を増し、現在では年間 8 万人が乗船するほどになりました。風景が多彩の内湖巡りで、お薦め 80 分のコースで 4 km ほどの距離を、歩いている人にも追い越されるくらいの速さで、1 時間ほどかけて周遊します。乗ってしまえば陸は見えても別世界、時の流れも緩やかです。舟から水面はすぐそこ、魚の仕掛けや岸に育つ草花にも手が届きそう。季節の移り変わりや水辺にすむ人の生活までも朴訥に、また面白く語ってくれる船頭さん。人懐こい鴨が舟に近寄ってきて、餌をねだる様子にも心癒されます。

「家族やグループなら貸切舟が割安ですし、お一人での乗船なら予約なしで乗れる定期便がお勧め。様々な水郷巡りがありますが、私どもの組合では“手漕ぎ舟”に拘っています。元々環境保全から始まった活動でもあり、原点回帰という意味で敢えてちょっと不便な手漕ぎで自然と共生していくということ、琵琶湖を護るということ、本当に豊かな暮らしなどを一緒に考えてほしい」と現・組合理事長の福永栄子氏。福永武氏亡きあと、ご子息の妻・栄子氏がその遺志を引き継いでいるのです。

◇子供たちの環境学習、障害のある人々には楽しみ、リタイア後の高齢者には、第二の人生の遊びを！

その想いが発展して、同組合では、障害のある人々への福祉招待日を設けたり、地元小学校の環境教育や修学旅行生のための手漕ぎ舟体験を実施し、琵琶湖の自然や近江の伝統文化を紹介するなど、手漕ぎ舟での水郷巡りを通じて環境保全への啓蒙を行っています。また、リタイアした人々を船頭として雇用するなど、高齢者の社会参加にも積極的です。30 人ほどの船頭の中には、生徒を連れて水郷巡りを体験したのがきっかけとなり、此処で根を下ろした元校長先生など、舟客として訪れ、手漕ぎ舟に魅せられて船頭を志した人が何人もいます。様々な形や方法で人と自然の豊かさとは何かと問いかけ、あるいは具体的な提案もして、一人一人の発見の手がかりを提供する“手漕ぎ舟の水郷巡り”なのです。

＜貸切舟＞…予約要 (0748 - 32 - 2564)

◇就航期間／年中無休(但し、年末年始運休)

◇出航時間／予約時刻に合わせて出航

◇料 金／普通コース (80 分まで) ……9,100 円 (6 名定員舟)、11,800 円 (8 名定員舟)
遠回りコース (120 分まで) ……11,300 円 (6 名定員舟)、14,670 円 (8 名定員舟)
かわら堀コース (60 分まで) ……8,380 円 (6 名定員舟)、10,480 円 (8 名定員舟)

＜乗合舟＞…予約不要

◇就航期間／4 月 1 日～11 月 30 日 (毎日)

◇出航時間／10:00～、15:00～ (1 日 2 回)

◇料 金／大人 2,200 円、小人 1,100 円

近江八幡和船観光協同組合

近江八幡市北之庄町 880

☎0748 - 32 - 2564



“手漕ぎ舟”は今日も行く



大岩線 3/24 にやっと開通

杉田 宗三

府道 46 号線（茨木亀岡線）と府道 114 号線（忍頂寺福井線）および新名神高速道路の茨木千提寺 IC とを結ぶ都市計画道路“大岩線”が 3 月 24 日 14 時にやっと開通した。2017 年 12 月 10 日に開通した新名神高速道路（高槻 JCT～川西 IC）に合わせて茨木千提寺 IC～府道 114 号線間は開通したが、府道 114 号線～府道 46 号線間は 1 度完工した法面からの水漏れが発見され、その対策の再検討と対策工事に多くの時間を要し大幅に遅れてた。このためか開通式もなく静かに供用開始された。

大岩線の開通で茨木市中心部から茨木亀岡線（府道 46 号線）を経由して茨木千提寺 IC にアクセスすることが可能になり、新名神高速道路を利用しやすくなった。



今回の供用部分には歩道も併設されており、府道茨木亀岡線から大岩集落まで歩いて行くことも出来る。





紛失で知った I T 化の影の部分

杉田 宗三

先月山手台のバス停で降車した数時間後に定期入れに入れていた ICOCA カードと市営駐車場の身障者用減免カードを紛失したことに気づいた。直ぐに阪急バスの営業所に電話したが届け出はないとのことだった。

ICOCA カードはコロナ後 J R を利用する機会がなくチャージ残高も僅かだろうと思い心配しなかったが減免カードは利用機会もあるので再発行が可能かを尋ねるために市営駐車場の事務所に電話したら「警察に紛失届を出し、その写しを持ってきてください」とのこと。

翌朝茨木警察署行ったら土曜日だったので署内は閑散として静かだった。担当窓口で紛失届を提出したら、「この品はたった今、山手台交番から届いていますよ。」と言って目の前に私が紛失したカードを持ってきて見せてくれた。どなたが届けてくれたのかは相手の了解がないとのことで教えてもらえなかった。ただただ届けてくれた方に感謝！感謝！の気持ちで一杯になり落ち込んでいた気持ちが一気にホッコリした。

I T 化の影の部分を知ったのはその後だった。直ぐにカードを返して頂けるのかと思ったがそうはならなかった。担当官はどこかの部署と電話で長々とやり取りしている。どうも遺失物管理部署のパソコンへの登録に慣れた担当者がいないのか作業が順調に進まないようで窓口のパソコンにはその結果が未だ反映されず返還手続きが進められないようだ。

それから 30 分位してやっとカードが手元に返ってきた。I T 化前だったらもっと短時間に処理できたのではないだろうか。

何事にも長短は出るものだ実感した。

その後 J R 茨木駅に行き、念のために ICOCA の残額を確認してもらったら思いがけない金額が入っていることが判りビックリ。

日頃の確認不足を自覚させられた。



＝ 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ＝

日 時： 2022 年 5 月 12 日(木) 15:00～17:00

場 所： 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

住所：茨木市上泉町6-29 TEL:072-624-5552

- 内 容： 1. お花見の振り返り
2. 5 月 24 日(火)大東市散策の進め方
3. 6 月以降の行事 情報交換 その他

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年 3 回程度の街歩きを行なっています。
参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。
とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



《 編集後記 》

- 4 月 5 日に実施した妙心寺・双ヶ丘でのお花見は無事終了しました。まあ、見事な桜を目の当たりにしました。いぜんとしてコロナが治まらず、マスク着用での実施でした。2～3 ページに当日の模様を掲載しています。マスク姿で顔がよく分かりません。来年のお花見はマスクなしで OK となるのでしょうか。
- 5 月 24 日(火)に大東市を訪ねます。11 名の参加があります。茨木とは違った町並みと食事が体験できるとのことです。ガイドさんの解説付き。追加の申し込みもお待ちしています。
- 会員の鈴木さんが個展を開催されます。1 ページにその内容を掲載しています。時間があればぜひ阪急電車茨木市駅ギャラリーまでお越しください。時間のない方もぜひ訪ねてみてください。

《 編集・発行 》

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目 10-22
Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp
街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2022 年 4 月現在での訪問者は 9,582 <前月比 20 の増加> となっています。

